



学校教育目標『人を尊び 本気で学び たくましく』

～ふるさと川越山田に自信と誇りを持てる生徒の育成～

努力は人を裏切らない

校長 守岡 信一

エジソンは、今からおよそ 170 年前に、アメリカ合衆国で生まれた発明家であり起業家です。

エジソンの発明に「白熱電球」があります。エジソンによって「白熱電球」が発明される前は、明かりといえば、ろうそくかランプでした。光量も弱く、風などですぐに消えてしまうランプやろうそくに比べて、電球の発明は、まさに画期的な出来事でした。

「夜でも昼のように、光で明るく照らされる世界をつくりたい」、そんな思いからエジソンは「白熱電球」を発明しました。それは世紀の大発明ですが、私が驚いたのはその発明の過程です。

電球の発明は、最初からうまくいったわけではありません。長時間、光を出し続けるためには、電球の中で光る細い線（フィラメント）が、電気を通して熱くなっても、すぐに切れたり、燃えたりしないようにすることが必要でした。つまり、フィラメントの素材を何にするのかということが問題です。

新しい素材を試しては失敗、そのくり返しが続きました。皆さんがエジソンなら、何回ぐらいまであきらめずに挑戦できるでしょうか。

エジソンは、成功するまでに、なんと一万回以上の実験をくり返したと言われてます。今までに目標を達成するために一万回も挑戦したことなど、私にはありません。

エジソンは 30 才を過ぎ、木綿糸を炭素化させたフェラメントで 14 時間の連続点灯を成功させました。しかし、白熱電球を世の中に売り出すには最低 600 時間の点灯が必要と考え、世界中からおよそ 6,000 種類の材料を取り寄せて試しました。次に材料を竹に絞り、竹だけで 1,000 種類以上の実験をしたと言われてます。

そして、とうとうエジソンはフィラメントに適した素材に出会いました。それは、しっかりと引き締まった繊維が特徴の京都にある竹でした。新素材が開発されるまで 10 年以上も製作されたそうです。今から 140 年前のことです。

ある新聞記者が質問しました。「何万回も失敗してあきらめようとは思わなかったのですか。」そのときに、エジソンは次のように答えたのだそうです。「あれは失敗ではありません。うまくいかない方法を一つ一つ確かめたのです。」「あきらめることこそが失敗なのです。」エジソンによる挑戦の結果、誕生した電球は、今でも私たちの生活を明るく照らしてくれています。もし、エジソンがあきらめていたら、私たちの今の生活は暗闇のままだったかもしれません。エジソンは一万回以上の挑戦の結果として「白熱電球」を発明しました。

人間は、何度も失敗して、間違えて、それでもまた挑戦して…、そうやって成長していくものです。「挑戦の先には成功か学びのどちらかしかない」と言われます。つまり、失敗とは学びの別名なのです。

山田中の皆さん、どうか失敗や間違えを恐れず、何事にも挑戦して、自分の力や可能性をどんどん伸ばして行ってください。山田中が、皆さんが大きく成長するための場となるように、先生方はいつでも応援しています。